

新しきクリエイター

美の小箱

木津文哉

文・増田 洋 〈美術評論家〉

人口の移動が盛んな今日の状況下では、県内へ移転してくる人、県外へ転出していく人の流れは活発だ。美術展を訪ねると、思いがけない人が、いま、県内で活動していることを知る。美術界はきわめて流動している。

昨秋、西宮市民ギャラリーで、神戸独立美術展が、本当に久しぶりに開かれた。その会場で、私は、木津文哉を初めて見知ったのである。第二十回以後の安井賞候補展は欠かさず見ているから、木津文哉が同展に出品したことは記憶にあった。しかし、関東在住であると思っていたから、神戸独立美術展に参加していることに、一寸おどろいたのであった。

一口で木津文哉の絵を言い表わすなら、描き表わす行為と情熱が凝然として結晶したという感じがする。構図を考える気構えが大きいからだろう。そして独自の混合技法の効果は、作品を重厚なたたずまいのものにしているのである。押して押してまた押すというような感じがする。神戸独立美術展で見た木津文哉の作品は現代青年像であった。描かれた画中の青年のファッションは、きわめて今日風である。そこには、他では見ることでできない今日の青春像の息吹きがある。同時代の仲間たちの生活感覚に根ざしている木津文哉の造形の手触りは、年輩者である私にとり、まことに新鮮に感じられる魅力である。



広場—3
(1989年)

木津 文哉



- 1983年 東京芸術大学絵画科卒業
- 1984年 独立美術展出品(以後出品)
- 1985年 東京芸術大学・院終了
東京セントラル美術館油絵大賞展(佳作賞受賞)
銀座スルガ台画廊個展(以後毎年個展開催)
- 1986年 第6回富嶽文化賞展(奨励賞受賞)
銀座ギャラリー21個展
- 1987年 玉屋画廊個展(イメージオンペーパー展)
- 1988年 第31回安井賞展出品
浜松私のイメージ展
第8回富嶽文化賞展(賞候補)
- 1989年 梅田グランドギャラリー個展
他グループ展、コンクール多数出品

やったー！ 神鋼V₂



写真左 / 止まらない止められない神鋼重戦車 写真上 / 優勝カップを受け取る喜びの平尾主将

史上最多の58得点で早大を粉砕

神鋼無敵のV2——1月15日東京国立競技場に62,000人の大観衆を集めて行われた第27回ラグビー日本選手権で、社会人代表の神戸製鋼が学生代表の早稲田大学を58-4の大差で下し、2年連続2回目の日本一に輝いた。

戦前から有利を伝えられていた神鋼だが、FW戦で早大を圧倒。バックスも自在の展開を見せ8トライを奪うなど攻守にわたって実力の違いを見せつけた試合だった。

もはや国内においては無敵ともいえる神鋼フィフティーンだが、新日鉄釜石のもつ6連覇の大記録を目指して、更なる飛躍を期待したい。



を込めて。

100円) … 950円(税込み)



れる人だから。
ん(100g) … 450円
… 3,500円
… 1,200円
バス・シャワー

とっておきのスイートな味をどうぞ。

- ジョリカセット
バレンタインケーキ … 2,000円
(予約受け付け: 2月10日④まで)
地1階洋菓子売場



くつろぎのひとときは、このマグカップで。

- イニシャル マグカップ 1,200円
(2月27日④まで)
5階暮らしのコア



楽しい時が過ぎせるといいですね。

- 時計(グリーン・レッド) 11,800円
大丸浜側住友生命ビル1階「クリークス」



プレゼント選びは、年々難しくなるけれど。
彼の喜ぶ顔を思い浮かべあれこれ迷うのも楽しい。
誕生日やクリスマスとは、また別の心を込めた贈りもの。
バレンタインの準備も、いよいよ本番です。

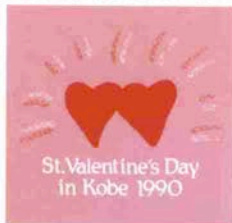
最高の日にしてあげる。



DAIMARU KOBE

電話(078)331-8121

1~4階・地1階は7時まで営業
5階~屋上・地2階は6時30分まで営業



2人にとって最高の日、2月14日(水)バレンタインデー。
大丸神戸店は、水曜日ですが特別営業。

デートの約束も忘れないでね。

●ランセル

システムノート.....15,000円

ステーションナリーセット.....5,000円

6階ステーションナリーコーナー

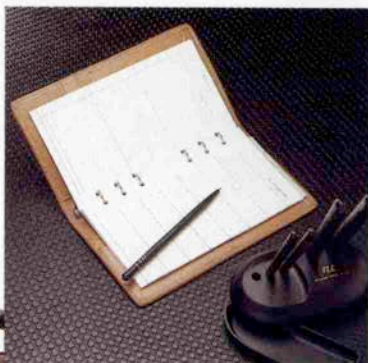
洗練されたカジュアルを目指す彼に。

●ポール・スミス

バッグ.....58,000円

4階ギャレリアウオモ

●表示価格の3%を消費税として別途頂いたします。



足もとにも気を配ってほしいから。

●ケンゾー

ソックス(4色).....各1,500円

4階紳士くつ下売場



ブランデーに思い

●サントリー

ブランデー VS.O.P

地1階洋酒売場



とても、清潔感あふ

●ひげそり用粉石け

シェービングブラシ

シェービングカップ

5階コンフォートシー

こんなに、神戸です。

菊正宗の宮水で珈琲づくり38年

靈感から生まれた宮水珈琲

菊正宗酒造の嘉納会長がにしむら珈琲御影店フレンドサロンへ。菊正宗の宮水で抽出するコーヒーが神戸つ子に親しまれて38年。川瀬喜代子会長と宮水談議です。

川瀬 今日、会長にお逢いしたら、この38年間頂戴致し、コーヒーを出すことが出来る事を一番にお礼申したいと思っております。有難う存じます。

嘉納 いやいや、私は以前から



嘉納穀六会長



川瀬喜代子会長



この樽で運ばれる宮水がおいしい珈琲の秘密

ずっと、何故コーヒーを入れるのに宮水を使うを思いつかれたのかを伺いたくて……

川瀬 もう40年近く前の事、家族で六甲へキャンプに行きまして、朝小川のせせらぎで入れたコーヒーの美味しい事！この味をお客様に……。との思いが強烈でした。コーヒー粉もクリームも店で使用している同じ物、違うのは水だけです。毎日六甲へ水を汲みに上がる訳にもいかず

と思い悩んでいる所、お客様の中に水の研究家がおられ、六甲の花崗岩層を通して流れ込んでいる所が宮水地帯で此所の水が最高と聞き、飛び込んだ所が菊正宗さんの宮水井戸でした。以来38年間ずっと御好意に甘えております。

嘉納 宮水に目を付けたのは正に靈感ですね。靈感によって発見してチャレンジしたわけですね。素晴らしいことです。宮水は六甲の流れが海からの塩分を含んだ水と混ざり合った、ミネラルの多い硬水です。これは酒造りにも重要で、硬水を使うと発酵が旺盛になり、出来たてより、秋まで待つて熟成させた美味しい酒が出来るんですよ。コーヒーもそうですか？

川瀬 はい。珈琲豆も焙煎してからの鮮度が大切なのですが、焙煎した直後の豆は味が物足りなく、24時間ねかせた豆が一番美味しいコクが出ます。お酒も水やねかせ方で味が決まってしまうデリケートなものなんです。菊の季節に美味しくいただく。なんて素敵ですね。

嘉納 神戸は「グルメの街」と言われていますが、若者を対照にするばかりでなく本物のグルメが育つ街でありたいですね。川瀬 私も、より美味しいコーヒーをと頑張ってきましたが、なんの紹介もなくたびたび私共が宮水の使用を許可して頂き、見守って下さったからこそだと心より感謝しています。



にしむら珈琲御影店

TEL 078.854.2105
8:00AM~10:30PM 無休 駐車場50台完備

今宵、街中 *Lovely-Dovey*



WHOLESALE & EXPORTER of cultured pearls
KINOSHITA
PEARL
CO., LTD.

Order Salon

株式会社 木下真珠

〒650 神戸市中央区山本通1丁目7-7(北野坂)

TEL (078) 221-3170

10:00AM~6:00PM 無休

東京 / 赤坂・銀座・青山 大阪 / 心斎橋



Grass Spin-I
作・松本 薫

これは神戸を愛する人々の雑誌です
あなたのくらしに楽しい夢をおくる
神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ
これは神戸っ子の心の手帖です

2月号目次 1990・No.346

- 表紙／(故)小磯良平
セカンドカバー／西村功
11 神戸っ子90／成瀬香泉・竹山清明
14 ある集い／アメリカンフットボールチーム・モンスター
日本バーテンダー協会神戸支部
17 コウベスナップ／新年名利文交換会・シャガール展
18 美の小箱／文・増田洋 絵・木津文哉
20 スポーツコラムーV2達成／神戸製鋼ラグビー部
31 私の意見／八馬望
33 随想四題／小林政夫・村上三郎・羽多悦子・堀尾貞治
36 地域文化論／水谷嗣介
38 連載エッセイ／田中千佳 絵／西村功
42 珈琲飲みながら／満田弘美(エドモント大学日本校)
44 経済ポケットジャーナル
46 酒特集(Ⅰ)神戸酒徒座談会／石阪春生・下村光治・筒井康隆
内藤国雄・望月美佐
54 酒特集(Ⅱ)神戸酒徒番附選考座談会(経済人)
神戸酒徒番附選考座談会(文化人)
58 平成二年神戸酒徒番附発表
60 酒特集(Ⅲ)灘五郷酒情報—純酒ここにあり—
64 酒特集(Ⅳ)灘五郷酒蔵地図
66 話題のひらば／国際親善パーティ・(故)小磯良平画伯1周忌
68 キャンペーン座談会／神戸百店会ニューリーダー
新谷湧紀・東中弘吉・菊水章矩・浅木幸雄・柴田啓嗣
松谷年郎・大島智恵・永田耕一
74 ファッションウォッチング／大丸神戸店ブライダルサロン
ブライダルマザー・鷺屋アヤ子さんを訪ねて
76 ファッションスポット
84 神戸のお嬢さん／井上三和子・雲井律子
103 孟さんの兵庫ウォーク／高橋 孟
113 コーヒープレイク
114 動物園飼育日記／ゾウの動物園史(6)／亀井一成
117 神戸の集いから／元永定正展・七人の陶芸家展・田波克巳展
118 座談会／スポーツ都市KOBÉへの提言(グリーンスタジアムへ望む)
Mr. キャンパネラ・小山乃里子・浦長瀬裕・高橋 孟
122 ふたたびプロフェッサーPの研究室／岡田 淳
124 KFSニュース
130 有馬歳時記／有馬グランドホテルに茶室棟「雅中庵」オープン
134 神戸を福社の街に／橋本明
136 神戸百店会だより
138 モダンカルチャー
140 シネマ試写室／ファミリー・ビジネス・淀川長治
142 ぴつといん
144 ポケットジャーナル
146 るぼるたーじゅ神戸／有馬ヘルスセンターの麗人 文・有井基
151 神戸っ子倶楽部会員情報
152 連載小説／神戸文学賞受賞作・風車の音はいらない
文・上田三洋子 絵・小西保文
174 “ちょっとたたずんで”—街角の花—1 プロローグ・スズカケ
室井 綾
176 海船港／インランドシー号瀬戸内海を行く 文・かどもと みのる
目次作品—松本薫
カメラ／米田定蔵・池田年夫・松原卓也・森田篤志

受贈記念特別展

小磯良平展


—いま、ペールをめぐ小磯芸術—

'90年2月10日[土]～3月25日[日]



母子像 1954

開館時間／午前10時～午後5時（入館は4時30分まで）
休館日／月曜日（2月12日は開館）
2月13日（水）・3月22日（木）
入館料／一般300円（250円）
高大生200円（150円） 小中生150円（100円）
（ ）は30名以上の団体料金です。
主催／神戸市立博物館・神戸新聞社

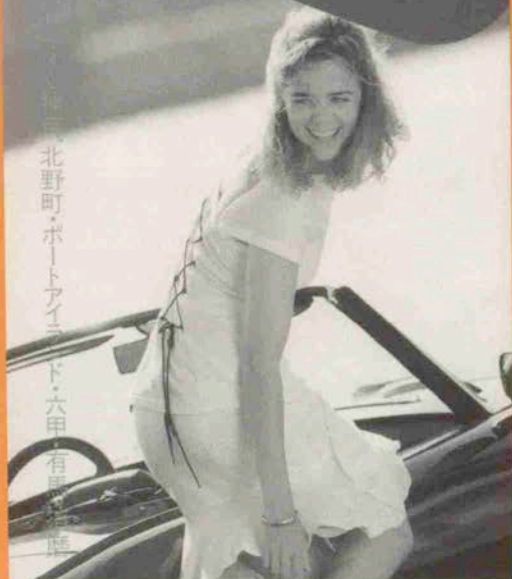
 神戸市立博物館

〒650 神戸市中央区京町24番地 ☎ (078) 391-0035

コウベ徹底ガイド

神戸&神戸

1990



神戸のエスプリを徹底ガイド

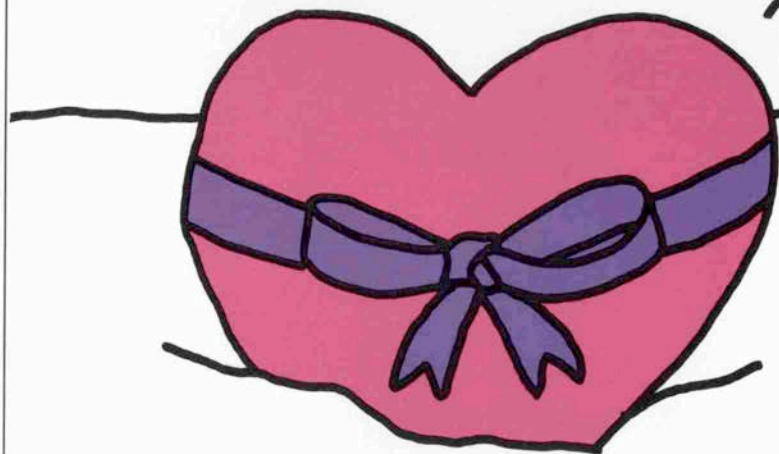
神戸のガイドブックはたくさんあるけれど、これは神戸が大好きな神戸っ子がつくった手作りの本。素敵な何かにめぐり逢えそうな神戸の風景が、この1冊にぎっしり詰まっています。

神戸の魅力を全国にアッピール 〈タウンガイド〉

三宮／ポートアイランド／北野／トアロード・大丸前／元町／六甲・
御影・岡本／神戸・兵庫・長田／須磨・舞子・垂水・明石／芦屋・
西宮・甲子園／有馬／六甲／宝塚

好評発売中 500円(税込)

Spring Collection



メリーヒル
ゲルラン
ボンフカヤ
シス
ルーブル・
ブライダルサロン

ダイアナ
オフ
クロードレマ
タカノ
ココ山岡
三愛

キャンディッド・マス
メイソングレー
フォーセット
ベネトン
ラッキーズ
ハニーハウス
イーストボーイ
靴下屋
フェアリー
ザンバ
リップスター
ベイトンブレイス
ヴィフ
バルチザン
クレヨン
マリークワント

アラブダレッツ
トウエンティワン
ミシュ・エタム
Aug
リーフノット
アトモスフェール
ヴィッキー
カボ
キャトルセゾン
ハウスオブローゼ
花王ソフィーナ
ワコール
トリンプ
ラバブル
ミセラン
シエル

FASHION PARK

神戸・三宮、さんプラザ2・3F
センタープラザ3F
営業時間 am 11:00—pm 8:00
PHONE—078・332・1698

2月14日は大切な思い出の1ページ



植村社長の友人、横山幹夫・るみ子さん御夫妻

POLO ポロシャツ ¥ 9,800
トレーナー ¥14,000



HEAD OFFICE 7F NEW CENTER 1-6-22/SANNOMIYA-CHO CHUO-KU KOBE CITY 078-392-1651

SANNOMIYA MAC
THE BLAZER SHOP MAC
DOLCE MAC
FESTA MAC
BENET TON MAC
FUJIIIDAIMARU MAC
SUNVIOLA MAC
PLENTY MAC

SANNOMIYA CENTER-GAI 1 078-391-0895
TOR-ROAD 078-391-0896
SANNOMIYA CENTER-GAI 2 078-332-0141
HIMEJI FESTA 2F 0792-89-4738
HIMEJI FESTA 3F 0792-22-1333
KYOTO FUJIIIDAIMARU 2F 075-211-0857
TAKARAZUKA SUNVIOLA 3F 0797-71-4830
SEISIN PLENTY 2F 078-992-0088

□わたしの意見

日本文化を担う

灘の酒

八馬 望

△灘五郷酒造組合理事長▽



平成二年のうらかな元旦の朝まだき時、私は夢の中に、昇りかける朝日を目指して灘の酒を満載した「樽廻船」が雄々しく船出して行く姿に思わず諸手を挙げて萬歳を叫んだところで目を醒ました。

思えば三百年の伝統の中で、今日もなお脈々たる「日本一の酒どころ灘五郷」の礎を築きあげてくれた先駆者の遺産をどのように守って行くべきか、灘五郷五十四社の組織をお預かりしている立場として改めて考えなくてはならないとの思いをこめて、新年の屠蘇をお祝いたのであります。

神代の昔から日本酒は我々の生活と言うよりも、民俗文化とは切っても切れない関わりを持って来ましたが、今さら多くを語る必要もないでしょう。

しかしながら、近代世相の中で、ややもすれば忘れがちに置き去られようとしているのも伝統文化ではないでしょうか。

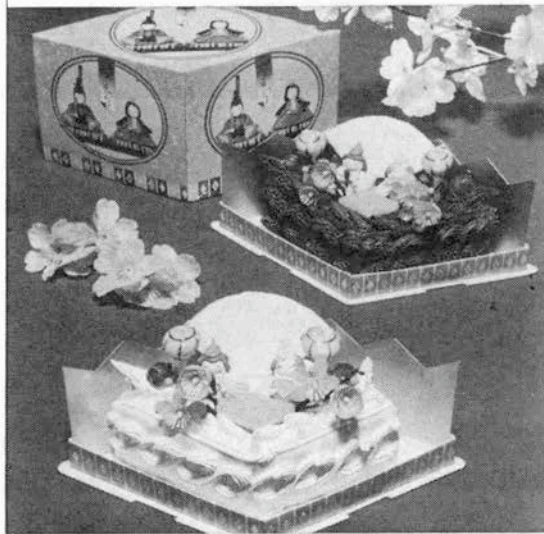
今、私はここで伝統文化論をぶつ積りはありませんが、灘五郷酒造組合では昨年十月一日「酒の日」の前夜祭として、九月三十日夕闇迫る大阪駅前に林立するビル群の谷間の広場で「灘の酒薪能」を催しましたところ、どうでしょうか、数百人しか収容能力のない広場に、抽選で消費者の方々を招待申し上げたところ、「是非見たい。何とか入場出来ないか。」とのお問い合わせが如何に多かったことでしょうか。お蔭様でレーザー光線に照らされた幽幻の世界がビルの谷間に出現しましたことで大成功を見ることが出来ました。数多くの人々が、伝統文化に郷愁を感じるよりも、むしろ、あこがれを持っておられることをつくづくと感じたのであります。

四季折り折りになせる日本の春夏秋冬はまさに世界に類を見ない文化の香りがあります。またそれぞれの文化と日本酒との繋りの深さも生き続けております。

灘の酒こそ日本の文化の担い手の一つだとのことがましい責任感こそ、灘の酒の発展と繁栄に連なるものだと感じるのであります。

三月三日はひな祭り

嬉しい、嬉しい
ひなまつりには
菱形デコレーションをどうぞ



- ★クリーム・チョコレート 小 ￥1200
- ★クリーム・チョコレート 大 ￥2000
- ★生クリーム 小 ￥1500
- ★ひなボックス 生 ￥1000

— 北 欧 の 銘 菓 —

2-ホーム・コンフェクト

KAKINUMA GALLERY



風のある午後
(油絵)

南 和恵
二紀会同人

うみかぜ
海風が坂道を通りぬけ、空気の水分が
太陽にかがやき美しい造形をつくって
います。暖かな日の午後のひとときの
色彩は、パステルカラー。

★健保適用 産婦人科・内科(女性専科)

芦屋 柿沼産婦人科



阪神芦屋駅北へ1分・芦屋警察署東隣り

☎ (0797) 3 1 - 1 2 3 4 (FAX兼用)

当GALLERYに掲載ご希望の方は月刊神戸っ子まで御連絡下さい。

随想 四題



白川・堂東の石抱きかやの神木
(撮影中の小林政夫さん)

名木を撮り続けて

小林 政夫

〔日本広告写真家
協会会員〕



紅葉前線は一日20数キロという、かなりの速度で、日本列島を北から南へ駆け抜けて行く。こんな新聞記事に目を通して、神戸市公園緑化協会より、神戸の名木「市民の木」の撮影依頼がとびこんで来た。

昭和も終わろうとする11月のことです。明ければ平成元年、神戸市制百周年の年でもあり、この変り行く街を幾百年も風雪に耐え、じっと見つめて来た樹々の姿を写真集に収めるには、一本一本の樹との出会いと感動の瞬間を期待して尋ねて行く他に、なんの手だてもありません。

いま名木の写真集の随想を書く

に当って、撮影中に持ち歩いた○△×印で黒くボロボロになった地図を出して見ると、名木にまつわる伝説や古老の楽しい昔話に感銘を受けた事を懐しく思い出します。一つ寂しく残念に思った事は、

須磨区高倉町第一神明自動車道路南側沿いにそびえていたユーカリの大木が失くなってしまった事です。私が尋ねた時はすでに葉も落ち、幹と枝のみでしたが、須磨の浦を見下して雄々しく立っているユーカリは、どこことなく気品があふれ、近づきたい感じすら漂よわせ、幹の色も青空とマッチして本当に写真的で立派の一言でした。それから数カ月後に、新聞紙面でユーカリの木が伐採された事を知りました。今は原産地オーストラリアに帰ったのかもしれない。

「市民の木」からも外され、名木の写真集にも載らなかった君の須

磨浦での最後の姿を、供養の積りでここに紹介しておきましょう。

ユーカリの木を始め、全ての巨木は空気や土壌、光や影、地下水等の変化には非常に敏感です。昭和40年に発行された「神戸の名木」誌に載っている木の中にも、数点が既に面影を写真で見えるのみになっていました。自然環境のシンボルでもあるこの巨木を守る事が、我々人類が生きて行く大切な要素となるのではないのでしょうか。

「樹徳無量―樹の徳は計り知れません」。名木の写真集の題字を書かれた綿貫先生は、この様な話をされました。しかし木には足がないのです。どうか此方から逢いに行つてやって下さい。神が宿る素晴らしい奴等です。

風景となる壁画

村上 三郎

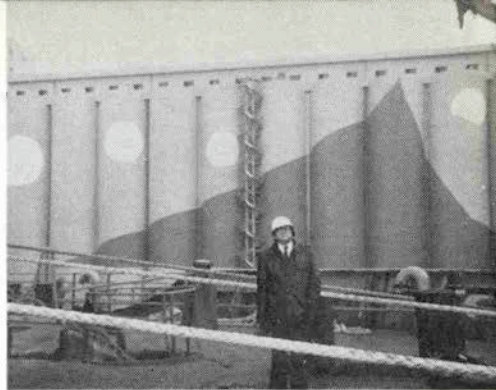
〔松陰女子学院
大学助教授
アーティスト〕



「あさ、日が当たっている時が
良いですよ」

この壁画を六甲アイランドの岸壁から見た人がいった。お天気によって、また四季それぞれ、時々刻々変化する自然の中で、絵が「風景」になる。

昭和産業のサイロに大きい絵を依頼された時、デザイン的な意図



御影浜の自信作（32M×70M）の前で村上さん

ではダメだ、子供のように大らかに、自然と遊ぶようなつもりでやるうと思った。単純に、ただそこに在るだけの形と色。

「赤い山と雷 点……点……」という題をつけたけれど、青い空、動く雲、背後に横たわる六甲連山、前方には碧い茅渚海、色とりどりの外国船、天を衝くクレーン。周りの景色に調和して、時間と共に変化し続ける風景画ができたと思う。然し、円筒状のサイロに平面の原画を拡大するのは大変だった。輪郭を移動する為に足場を何べんも昇り降りする清水建設の人達の現場の作業は、手さぐりの連続で全体をやり直すことになってしまった。だが結果は思いがけない盛り上がり、迫り来るような赤い山が出現するハブニングとなった。これは予定にはない制作の過程に起った成果だ。

足場が全部とり除かれて壁画が完成した日、六甲アイランドから皆んなで眺めた。空にはいろんな形の白い雲が浮んでいるし、暖冬の海風をうけて、のびのびした時間を満喫した。

昔、芦屋の松林で開かれた具体の野外展（1956年）で、私はロケットのような白い布の円筒の中から、雲の流れをみる「空」というオブジェを作ったことがある。これは自然をとり込んだ新しい試みだったということで、今年の12月に、ローマ国立近代美術館で開催される具体の回顧展に出品する予定になっている。

この「空」の作品と関連なく企画したこのサイロの壁画が、偶然にも、作品と自然との関係、時間と共にある絵など、永い間考え続けていた私自身の問題を、33年ぶりに見直す良いチャンスになったのは不思議に思えてならない。

そして、この機会を与えて下さった方々に心から感謝すると共に、この壁画が神戸港のウォータ・フロントで出遇う人々に、どんな風景を提供することが出来るか、楽しみにしている。

恩師との再会に涙

羽多 悦子

〈神戸女子短期大学
助教授・彫刻家〉



このころ作品と一緒に埼玉美

術館、東京都立美術館（上野）、銀座アネックス等と駆け回っておりました。神戸で少し大型の個展を開きたいと彫塑に必要十分なスペースを探していたところ、武蔵野美大校友会兵庫支部展に選抜作家シリーズを併催しようという企画、第一回に名指し頂いて都合の良過ぎる会場にワクワクしたり、ドキドキしたり。

以前より個展の心積りはあったもののさんちかギャラリーのゴースサインが出てからというものの、もうドラマの幕は開いたの感。制作計画の練り直し、案内状のレイアウト、日頃より私と作品を観ていて下さる御三方に「御言葉」の依頼等から始まって、当然ながら日頃の助教授職も重なり頭も体もパニック寸前の日々を過しておりました。制作の手順上、空時間が出来三宮界限のはしごに参加すると「久しぶりだね、忙中閑ありだね」なんて声を聞く始末。忙しさを外に見せない生き方が好みなのに此の度ばかりは周囲に悟られた気配。しかし、いよいよ個展オープンと成ると苦しさもどこへやら、観客の目の輝きに、言葉の中に、手答えを確めながらドラマも山場、毎日がドラマティックそのものの。一つ一つ書き連ねたい処だけれどとりあえずは一つを。

その日も次々と訪ねて下さる御



恩師馬場（うまば）久雄さんとギャラリーにて

お客様に挨拶をくり返しておりました。「あのー、判りますか、私が」顔に視点を合わせて数秒、すぐさまに私はその声の方にしがみついております。恥しながら。なんと小学校卒業時の恩師でした。なにしろ30数年前の事ですからもうその驚きと喜びは表現のしようもありません。30数年間の出来事が早速で巻戻され自分でも訳の判らない涙がこぼれて止らず。今日此日の入口に押し込んで下さったのがこの先生だったので。御姿も澆刺として、温かくて、厳しく、の当時の印象はそのまま健在でした。この先生の指導のもとに、当時の小学校で5年間に一人と言われていた才女（？）の仲間入り、以後往復4時間、中学校への通学が始まったのです。思い立って当時の通知表を探してみました。「益々上向の兆しあり、努力

させて下さい」とありました。私の机の前にすわり込んでアレコレ指導する父の姿が思い起され、なるほどこの助言のせいだったかと思頃納得。「何事があっても最後まで黙々と成す子でしたよ。あの御両親も亡くなられましたか。これからは父親の役目もしなければ」と。私、また涙。

「ぼんくら」の酒

堀尾 貞治

△アーティスト△



神戸で生まれて、神戸で育って今も同じところに生活しているのが神戸以外の所を知らない。

1975年から15年かかわりあっている酒房ぼんくら（兵庫区中道通7丁目4-12）というのが僕と神戸と酒の唯一の関わりで、この15年の間お酒をこちそうになりつつけてきた。といっても月一回、毎月の最初の土曜日に大阪、尼崎、豊中、須磨、垂水等々、この近在の絵描き仲間が集まり、ぼんくらの壁面を利用して作品を飾り、そこで作品を肴に語り合うことを今も続けている。その晩の酒は格別にうまく、よくまわり心楽しませてくれるひとときとなる。

たまには呑みすぎてけんかもし



「ぼんくら」に集い、絵を語る

たり、又なんであんなことを言ったのかと考えたりしていると、又次の土曜日がきてとなる。どこにでもありそうな場所なのに、九州へ行っても四国に行っても、やはり神戸「ぼんくら」のことを語り、自慢出来る。神戸「ぼんくら」の酒は元氣と勇氣と感動をつけてくる。生命水と今は信じている。

この月一回の土一の会を楽しみに作品も作り、調子を整えてのぞむ。何故か行くと共に新しい自分を発見させてもらったのは神戸「ぼんくら」と酒の繰り返し返し。この中に僕の創作の源が今もあるようだ。